

RAIRIA Kasugabaru

レイリア春日原



このまちの彩りを、 みんなで重ねよう。

景色、風情、日々の暮らし。
そこで交わされる、
あたたかな言葉も。
すべてはこのまちらしい、
豊かな彩りです。
その重なりの中に、
また新しい色が加わりました。

このまちを、もっと、あなたらしく。

レイリア春日原、
グランドオープンです。

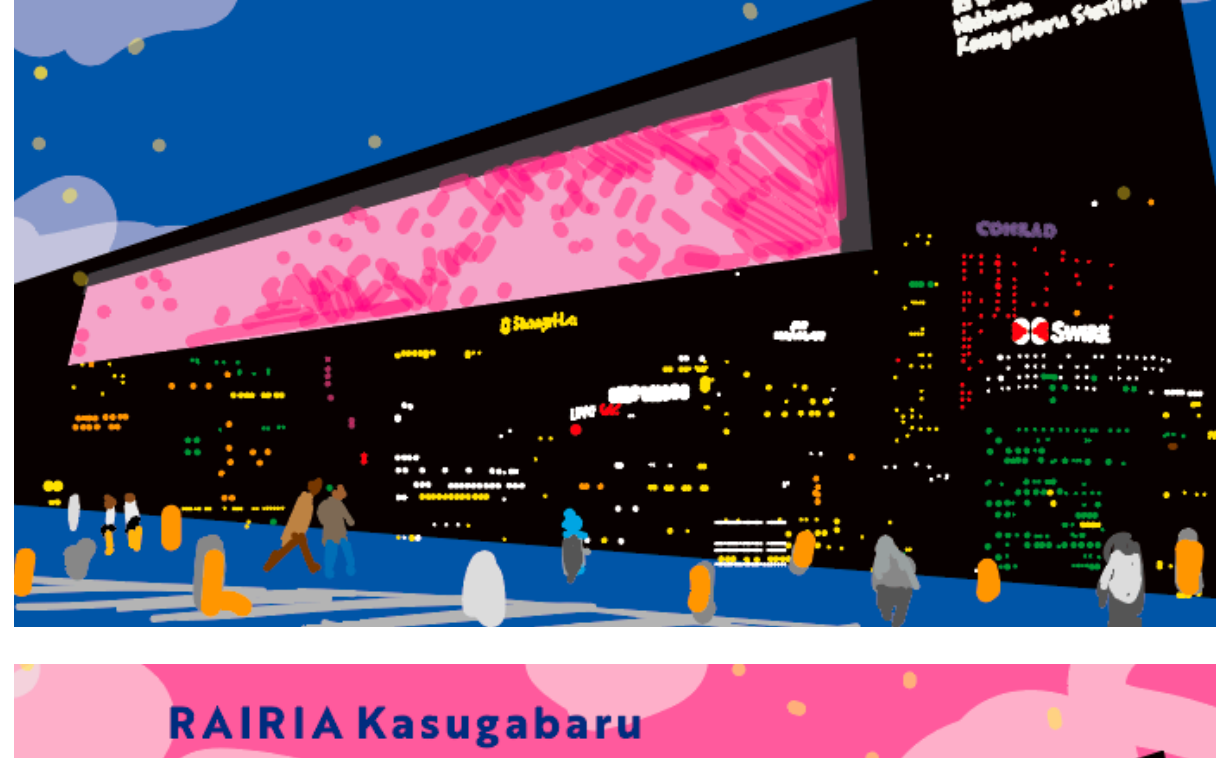
作品ができるまで



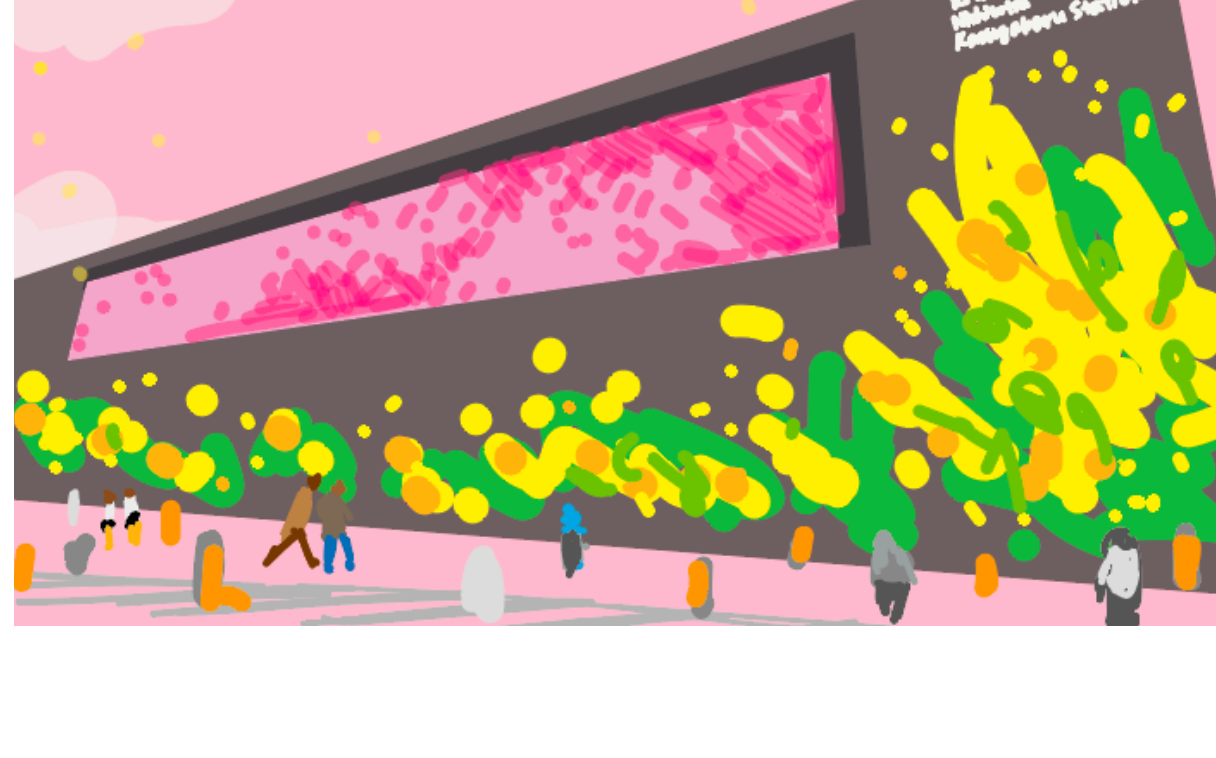
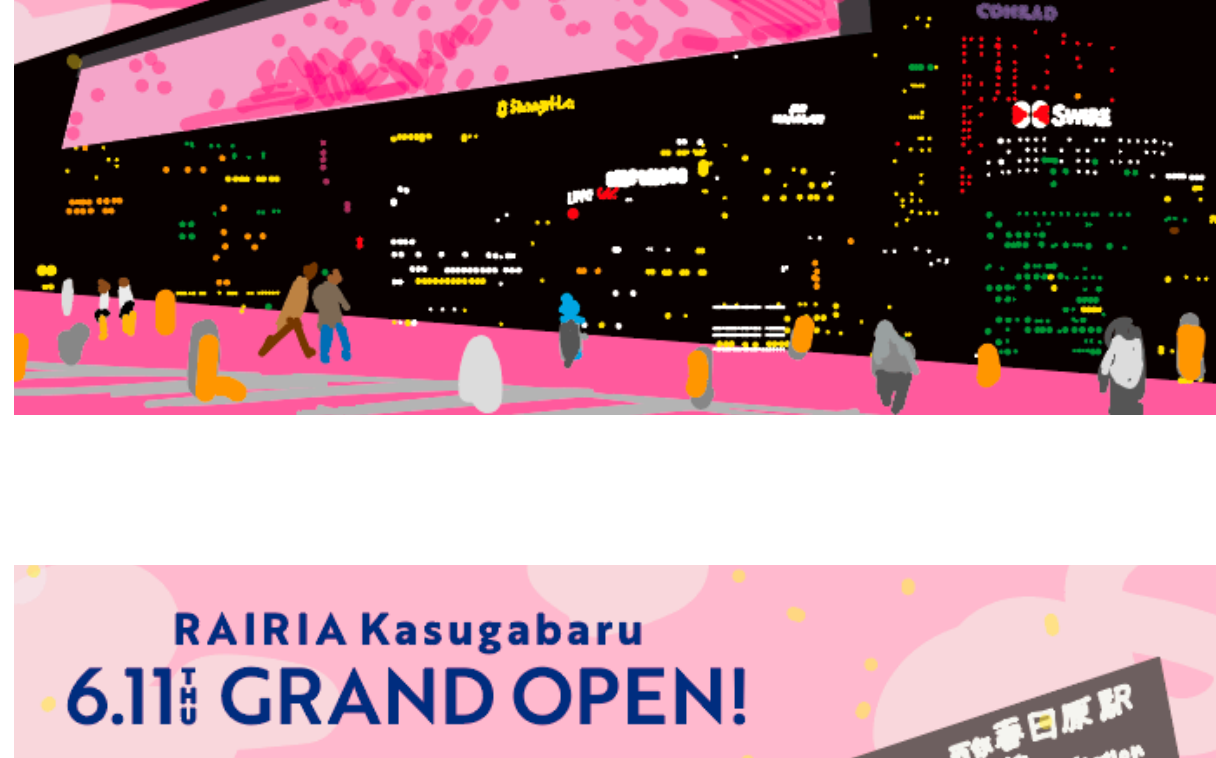
① 作品作りのインスピレーションを得るために、まず春日原の地を回った大村さん。神社や歴史資料館から、最初は龍神や西鉄の電車など街のシンボルになりそうなモチーフを取り入れようと、普段はあまり描かないイラストに挑戦されました。



② 「レイリア春日原」にまつわる要素を入れるため、フードやショッピング感を表現することも検討。



③ 打ち合わせを重ね、丸シールアートがきちんと伝わるものにしようと、大村さんが得意とされる夜景を重ねて想像を膨らませ、春日原の黒い駅舎が夜景の背景色に使えるとアイデアが浮かんだそうです。



④ そこからさらにイメージを膨らませ、春日原にはたくさんミモザが咲いているという話から、夜景ではなくミモザをモチーフにすることに決定！



完成！ 駅舎に直接シールで貼り込んだようなイメージの、大きなミモザが咲いているグラフィックになり、今回の作品が完成！

インタビュー

—— 今回の視察が人生2回目の福岡だったという大村さん。

春日原での現地視察後、春日原にどのような印象を抱きましたか？

大村 以前から福岡の住みやすさの評判は聞いていたので実際に住む事を想像しながら視察をしました。街の魚屋さんや八百屋さんの優しいお声掛けに癒され、長閑な雰囲気に本気で住みたい、と心を揺さぶられました！

—— 今回の作品で特にこだわった技法やポイントはどこでしょうか？

大村 ミモザのお花部分をシールで抽象的に再現し、そのほかの駅舎や人物の描写はしっかりリアルに描きこむというメリハリを作ったことで、ミモザの華やかさが駅を彩っているように伝わるのでは、と考えました。

—— 春日原の皆さんに一言メッセージをお願いします！

大村 改めましてレイリア春日原グランドオープン、おめでとうございます。この街を見た時、安心して生活ができる穏やかな空気がとても心に残っています。もし私がこの街の住民なら、どのような絵を飾ったら喜んでくれるだろうと、想像をめぐらせて描きました。新しい施設の誕生に際して、皆さんの心に寄り添えるような絵であることを祈ります。そして、丸シールで絵を描いているというユニークな技法を、少しでも面白く受け取っていただくと幸いです。

作者紹介



大村雪乃

1988年生まれ、東京在住。美術大学在学中に文房具の丸シールで夜景を表現する絵画を発表し、素材の意外性とビジュアルの美しさで2012年Tokyo Midtown Awardにて入選、オーディエンス賞を受賞。以降美術家として活動を開始。新見美術館等、釧路市立美術館等、砺波市美術館等国内市立美術館で大型個展を開催し精力的に作品を発表している。作品発表のみならず、シールを貼るだけで誰でも制作に参加できる観客参加型のワークショップ

監修や、MBS制作『プレバト!!』の丸シールアート査定の実生として出演。2023年初の著作『Let's Try!みんなのシールアートブック』を刊行。発行部数一万部を突破。2026年3月末『Let's Try!みんなのシールアートブックVol.2』を発売。多くの人に"シールアート"の面白さや表現する楽しさを伝えている。

